



2001/7/1

発行

目次:

特集

レポート作成時の経験
を卒業研究に 2

小さなアイデア 3

エッセイ

二上山の夕陽 8

学生団体・サークル
のお知らせ

U▲神奈川学習センター なつだより



[イラスト:坂戸五葉]

放送大学神奈川学習センター
〒 232-0061

横浜市南区大岡 2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

<http://u-air.net/kanagawa/>

E-Mail:social@u-air.ac.jp

特集： 面接授業を受けるときに 工夫していること

レポート作成時の経験を 卒業研究に活かすために

多喜乃 美樹

放送大学では他の大学と比べ、レポートを書く機会が少ないように思える。その数少ない機会を与えてくれるのが面接授業である。

面接授業でレポートを作成する際、卒業研究を履修する予定のある方は卒研の練習のつもりで取り組むのが良いのではないだろうか。文章を書くことに慣れておくのはいうまでもないが、ここでは「図書館に慣れておく」ということを重要なポイントとして挙げておきたい。

それというのも私はこの春から卒研の履修を始めたところで、現段階では主に図書館での文献調査を行なっている。この文献調査において、面接授業でのレポート作成時の経験が役に立っているように思えるのである。

レポート課題が出されて、まずは関連する文献を選ぶことになるが、それを印刷教材や学習センターの図書室の本、自宅にある本など手近なところで済ませてしまっていないだろうか。仕事や家事などと学業を両立されている方にとっては難しいかもしれないが、しかしぜひこの機会に、卒研を進める時に研究の拠点となるような図書館（自分の利用できる地域で最も規模の大きい図書館など）を利用していただきたい。

文献調査のために図書館を利用するとなると、初めは結構戸惑うものである。書架の配置、蔵書検索端末の使用法、閉架式書庫の本の閲覧手続きなど。これらは利用する図書館によってまちまちだし、大規模な図書館になるほど複雑になってくる。このような戸惑い

をなくすにはその図書館を何度も利用して経験を積むしかない。それには「小さい論文」である面接授業のレポートから始めるのが手頃なのだ。いきなり卒研で初めて図書館を利用するとなると、かなり苦労することになるだろう。

また、文献調査というのは意外に体力を使うものだ。館内を歩き回ったり、蔵書検索端末やコピーの使用で立ち通しだったり……。運動量としてはたいしたことはないのかもしれないが、普段していないことをするということはそれだけで疲労が増すので、体力的な面からも「慣れて」おく必要がある。

さらに司書の方に随時文献検索の相談をして、図書館や参考図書について多くの情報を得ておくことも上手な図書館利用への近道だ。ちなみに学習センターの視聴覚教室に「図書館の達人」というビデオがあるのでそちらの視聴もお勧めする。

これらのことをなるべく進めておき、卒研履修前年度のテーマ探しの時点では「自分の研究の拠点となる図書館に慣れた」状態になっておくことが望ましい。

文献検索がスムーズに進むということはそれだけ研究もスムーズに進むということだ。逆に図書館を上手に利用できないということは、それだけ無駄な時間も増えてしまうということになる。

私自身はというと、面接授業のレポート作成時には卒研のことはまるで意識しておらず、また、去年まではアルバイトと掛け持ちの学業だったので、図書館を利用したのと手近な資料で済ませたのとは半々くらいである。今こうして卒研を進めてみて、あの「図書館の戸惑い」を早いうちに体験できて良かったと思うし、もっと図書館を利用して、もっと「慣れて」おけば良かったなとも思う。

面接授業でレポート課題が出されたときにはその講師の方をうらめしく思ってしまったものだが、今は逆に図書館を利用する機会を与えてくださったことに感謝している次第である。



小さなアイデア

皆川 昭三

科目の履修が進むに従ってプリントがどんどん溜まっていく。図書館で参考書を見つけてはコピーをとる。時には思いがけず興味を惹起される図書にぶつかっては又コピーをとってくる。いつの間にか自分で綴じ込んだ中味が何のものか判断つかない量になってくる。

ましてや、面接授業で分厚いB4タイプやA3タイプなど、半折りにして益々嵩張るためにそのまま状袋に入れておく。これがいけないのである。ファイルに綴じても本棚やキャビネットの中で立てておくと、やがて反り返って沈み込む。多くの学生仲間が経験しているのではないのでしょうか。折角いい資料を頂いたのですから、眠らせずにいつでも引っ張り出して二度三度読み返したい。誰しもそんな愛着をもちながら、意外と整理は難しく、又億劫でもある。

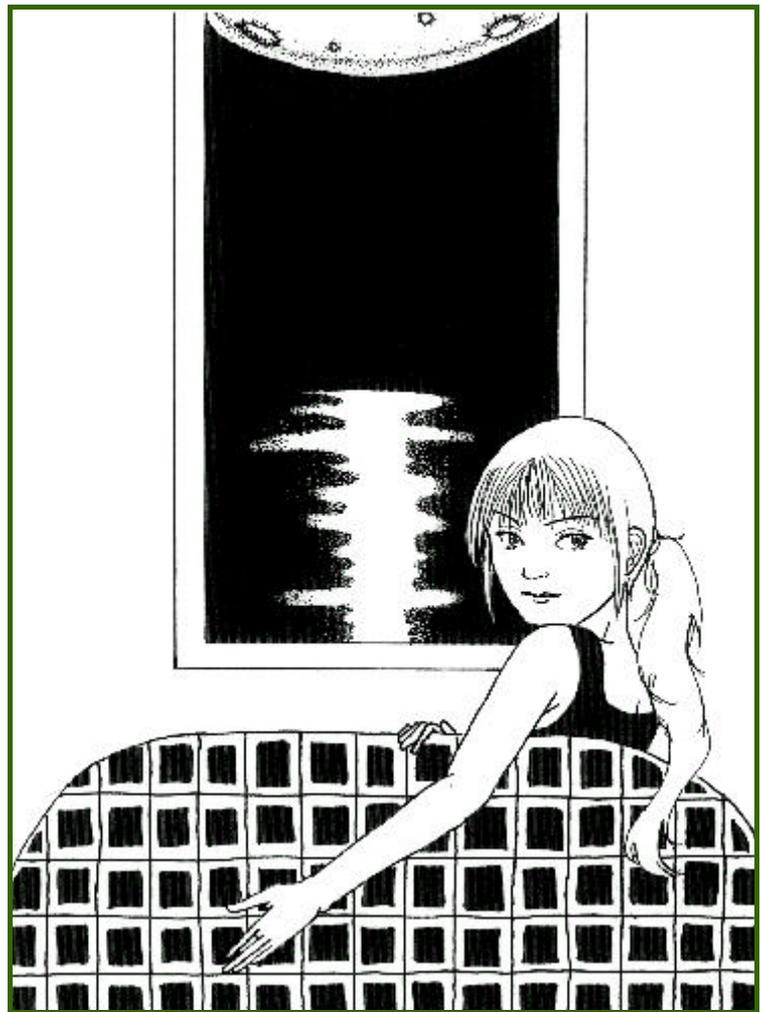
そこで私は考えた。先ず、ホッチキスの針は必ず抜き取り、半折りにしてパンチ孔をあけて紐を通すのが一つ。半折りにしてもホッチキスでとまる厚さなら再びホッチキスでとめるのが一つ。分厚くなる面接授業も沢山ありますね。それは半折りにして糊づけで製本します。慣れると少しも苦になりません。

こうして出来た冊子を、今度はステッチ函や貼り函に入れるだけでいいのである。体裁は良くなるし、使い易くなるし、見出しも付くし、本立てで崩れることもない。野毛の横浜市立中央図書館へ行くと、不用の貼り函やステッチ函(辞書など厚手のケース)が段ボールに入れられ、一階のエレベーター脇に置いてある。自由に持ち帰ることが出来る。朝方に満杯でも、夕方帰る頃に

は少なくなっている。

我が家には、哲学のキケロー選集、マックウエーバー研究、解剖学辞典、小六法、新日本古典文学大系の万葉集、横光利一全集、荷風全集、ドイツ語辞典など、これらのケースが仰々しく並んでいる。中味はプリント資料である。知らない人は、「随分巾広く勉強してらっしゃるんですね」と言われる。「なーに中味はコピーですよ。ハッハッハッ」

あなたも有効に活用してみても如何。本立てにも、本箱にも、面接授業のプリントが生き返ってくる。必ず読み返す気分になってくる。



二上山の夕陽 - 中将姫物語 -

小林 公子

大阪市の南、あべの橋から近鉄に乗り約30分、やがて右手に雄岳、雌岳の二つの頂をもつ二上山の山容が見えてくる。雄岳の頂上付近には悲劇の皇子、大津皇子の墓もあり、姉の大伯皇女によって「うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む」と歌われ、この山は古来から聖なる山と伝えられている。山の麓に中将姫の伝説を秘める当麻寺がある。当麻寺駅で下車し、名物の草餅屋の角を曲がり参道を10分、仁王様に迎えられて山門をくぐる。やがて右手にある小さな堂が娑婆堂とよばれる建物で、金堂と講堂を左右に見て歩めば一段高い場所にある曼陀羅堂に達する。この寺の本尊は仏像でなく、当麻曼陀羅図が堂の正面の厨子に納められ本尊とされている。この当麻曼陀羅図こそが中将姫伝説を生み出す源なのである。

13世紀に制作されたといわれる

『当麻曼陀羅縁起絵巻』には、大きな機で、観音の化女が蓮の茎からとった糸で一夜にして当麻曼陀羅を織り上げる姿が描かれている。この当麻曼陀羅は4M四方に及ぶ大きなもので現存するが、傷みが激しく、現在は国立奈良博物館に保存されているようだ。これを調べられた大賀博士は「曼陀羅は、経糸に麻、緯糸に絹を用いた綴織である。」とされ、蓮糸は使用されていない。奈良時代末か平安時代初の作とされ、国産説と唐からの伝来との二説が存在するが、私はこの年代に我が国でこのような優れた織物の技術の存在は考えられず、また、敦煌の石窟に数多く同じような浄土変相図が描かれていることから、唐から遣唐使によってもたらされたものと推測したい。

中将姫はあくまで架空の人物とされ、当麻寺は聖徳太子の弟、麻呂子親王の發願で建立されたと伝えられ、当地の古代からの豪族であった当麻氏の氏寺として栄えたのである。立派な曼陀羅が施入されたのは、当麻一族か

ら、天皇、皇族、貴族など当時の上層部に嫁いだ女性があり、その女性が中将姫のモデルになったと考えられている。また、この物語には最初の頃には、現在みられる継子いじめの話は存在せず、中将姫の名称も用いられていないようだ。中将姫という言葉の定着は13世紀後半とされ、その頃から現在のような形式の物語が展開していったようだ。やがて世阿弥によって「雲雀山」「当麻」などの中将姫が関連する能が生み出され、近世以降には歌舞伎や文楽などでも演じられ、大衆の間に中将姫物語は深く浸透していくようになったと思われる。

現在も当寺の伝統行事として行われる練供養は、正式には聖衆来迎供養会式と呼ばれ、毎年5月14日に行われる。曼陀羅堂を極楽浄土に見立て、娑婆堂との間に木橋を設置し、諸菩薩が来迎して中将姫を極楽へ導く様子を儀式として行い、寺の説明では源信僧都の發願と云われる。が、面の中に鎌倉時代の作が見出され、恐らく鎌倉末には現在のような姿になったと思われる。曼陀羅堂を出発した金の面を被った二十五菩薩が、娑婆堂で中将姫の像を迎え、その像を掲げる観音菩薩を先頭に再び曼陀羅堂に帰る。折から二上山の鞍部に真っ赤な夕陽がかかり、その光に照らされ、菩薩の金色の面は輝き、笙やシチリキによって奏される音楽とともに、現世に極楽浄土来迎を演出する。その姿は、自然を背景にした壮大な宗教劇として展開され、極楽浄土を願う民衆の心を強く打つ。こうして幾百年の歳月が続く行事として定着していったのであろう。



学生団体・サークルの お知らせ

放送大学同窓会

今年も5月13日に通常総会を開催し、その後、放送大学助教授の隈部正博先生による『ゲーデルの業績について』を演題とする講演が行われました。日ごろなじみのない数学に関するお話とあってか、参加した皆さんの顔のシワがさらに増えた(?)ように感じたのは私だけでしょうか。

しかし、数学の話とはいえ、ゲーデルの理論は知識そのものの基礎的な在り方を吟味しているだけに、文系・理系を問わず、参加者の知的好奇心をくすぐったに違いありません。

今後の予定

10月にハイキングを予定しています。詳細は会報『波濤』22号(9月発行予定)をご覧ください。また、来年1月に「映画100年」と題して、お話を交えた映画観賞会を予定しています。これも詳細は『波濤』をご覧ください。

今後の行事への多数の参加をお待ちしております。(片野記)

Nancy Class & うえるかむ

Nancy Classはオレゴン出身のアメリカ人女性による英会話クラスです。忙しい学生が多いので月2回の例会ですが皆英語が好きで生きた英語をと、頑張っています。全員が満足出来るように変化に富んだレッスンを行っています。

例会 第2水曜 10:00~11:30
第4水曜 10:00~11:30

“うえるかむ”は海外学生交流サークルとして各学習センター有志で平成7年に発足、活発に活動しています。4月にはイギリスのOpen Universityへ学生としては初めて16人で訪問してきました。神奈川学習センターの“うえるかむ”も平成8年より独自に活動を続け本年5月には“うえるかむ Kanagawa”として設立許可されました。今後ますます楽しいサークルにしていきたいと思っています。

例会 第2水曜 13:00~15:00
第4水曜 13:00~15:00

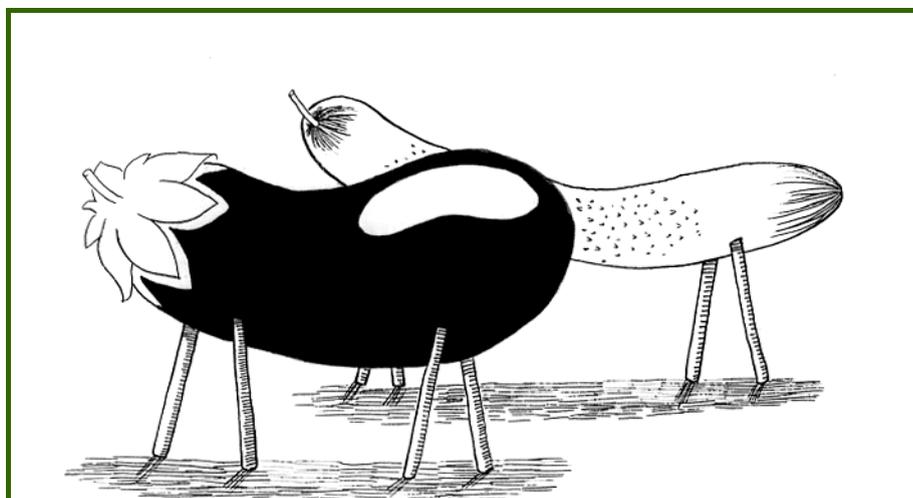
*各学習センター合同行事は毎月1回程度開催

*皆様のご参加をお待ちしています。

*連絡先

星 045-844-9647

坂本 0467-31-8036(19時以降)





オープン・ユニバーシティ訪問記

片桐 八十八

今年の4月4日から11日まで、放送大学の学生サークル『うえるかむ』の増岡代表をはじめ有志16名がロンドンの旅をしてきた。主目的は、オープン・ユニバーシティ（以下、OU）を訪問することであった。その教育システムを直接確認し、日本の放送大学との違い等をかいま見る事ができた。海外学生交流サークル『うえるかむ』は、海外の大学生や関係者が日本の放送大学を訪問されたときに、歓迎してあげるサークルとして誕生したのだが、海外にも積極的に出かけて交流を行っている。'96年はタイのオープン・ユニバーシティに、'97年は台湾の「空中大学」「師範学院」に、'99年にはオーストラリアでホームステイの体験をしてきた。そして今年は、今回紹介の通りイギリスのOUを訪問してきた。

さて、OUへはロンドンに到着後2泊して体調が整った6日にチャーターしたバスに乗り込み、ロンドンの北西約60キロのミルトン・キーンズにある本部を訪問した。あらかじめ、増岡代表がEメールで先方のドミニック教授（Visitor & Community Relations Manager）の了解をとってあった。学長は海外出張中であったが、No.2のアレン教授と、ドミニック教授が出迎えてくれた。お土産にはガラス箱入りの日

本人形を持参して大変喜ばれた。OU本部を外国の学生が訪問したのは、OU開設以来初めての出来事とのことであった。大げさに云えば、我々放送大学の学生サークルがOUの歴史を塗り替えたことになった。

教育システム、科目内容、単位認定試験等についてドミニック教授の説明を受けた後、構内を見学した。建物の躯体は大変古く、築200年程度のものが新しい建物であって、さすがに古き伝統を重んじる国柄であると思った。また、敷地内にはBBCのランチがあって活動していた。

今回の旅は、放送大学の学生にふさわしく、往復のチケット、ホテルの宿泊のみを旅行代理店に依頼する方式のツアーを組み、英語の実習を兼ねて、すべて手作りの企画をしたことである。例えば、地下鉄、汽車、バスを利用したりバレエ「ジゼル」やオペラ「王様と私」のチケットも自分たちで予約、購入し大変付加価値の高い充実した旅であった。（平成13年6月11日）

(注):オープン・ユニバーシティの住所等は下記の通りである。

The Open University
Milton Keynes MK7 6AA UK
WEBSITE:<http://www.open.ac.uk>
Office Tel: +44 (0) 1908 65 37 62
Office Fax: +44 (0) 1908 65 22 47



人間学研究会

【例会予定】(2001/07 ~ 2001/10)

07/08(日)「ぐうたら俳人インドをゆく」猪俣さん(会員海外視察報告)本年の4月2週間ニューデリーから地方都市アグラなどを廻り見聞きした旅紀行を報告して頂きます

08/26(日)神奈川センター学園祭(フェスタ・ヨコハマ)

10:00 ~ 16:00 渡邊 融先生の記念講演、

囲碁将棋大会、俳句・川柳大会、サークル紹介、ビアパーティ他

参加券販売は07/24 ~ 08/01の単位認定試験期間行います。

09/09(日)「將軍上洛」鈴木由子さん(会員研究報告会)

近代日本の歴史研究者として昨年の黒船来航に続く第二弾です。

10/13(土)「日本最古の紙幣」大出さん(会員卒研報告会)

日本最古の紙幣「山田羽書」のなぞ、その時代背景を考察します。

連絡先: 高橋暢二 044(355)3865

【歩きましょう予定】(2001/07 ~ 2001/10)

07/03(火) ~ 09(月)

「羅白岳・斜里岳の道東を尋ねて」

08/03(金) ~ 07(火)

「白山・荒島岳・伊吹山登山」別当出合 ~ 白山 ~ 室堂平 ~ 越前大野 ~ 荒島岳 ~ 勝原 ~ 伊吹山

08/19(日) ~ 22(水)

「木曾駒ヶ岳と御岳登山」駒ヶ根市 ~ 木曾駒ヶ岳 ~ 木曾福島 ~ 御岳 ~ 飛騨小坂

09/28(金) ~ 10/01(月)

「会津駒ヶ岳・尾瀬沼・鬼怒沼めぐり」

檜枝岐 ~ 会津駒ヶ岳 ~ 沼山峠 ~ 尾瀬沼 ~ 奥鬼怒沼 ~ 鬼怒川温泉

連絡先: 大出鍋蔵 0468(41)7937

神奈川放友会

皆さん通信指導の提出も終わり認定試験に備えて勉強中だと思います。

神奈川放友会は神奈川学習センター所属の学生団体で、会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する為のサークル活動を行っています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
 - ・一泊研修旅行(大学本部・図書館等)
 - ・旅にいこう会(行楽地・名所旧跡等)
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表
- ・パソコン勉強会

4月には20名の新会員も加わり更にパソコン勉強会も始まっております。放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

S行事予定(7月~12月)

8月26日学園祭(フェスタ・ヨコハマ)

9月15/16日一泊研修旅行(大学本部)

10月上旬 入会勧誘/歓迎会

10月21日 旅に行こう会(行先未定)

11月18日 例会(情報交換ほか)

12月16日 忘年会

パソコン勉強会は別途スケジュールで実施しています。

◎ 照会/入会申込先

〒235-0023

横浜市磯子区森1-15-1 810号
吉田 昭二

Tel/Fax 045-752-2783

神奈川放友会活動報告

鎌倉歴史散策 (その2)

放友会6月の行事は「旅に行こう会」で、鎌倉に行くことになりました。6月17日(日)は、梅雨の最中なのに、お昼頃には日が射し、午後は汗ばむほどでした。

10時に鎌倉駅に集合。女性は、今回の幹事で、鎌倉は自分の家の庭みたいな鎌倉在住の田嶋理事以下9名、男性は、いつも元気な吉田会長はじめ13名。総勢22名。(鎌倉国宝館に入る時、団体割引が適用されました。)

コースは、前は長谷方面だったので、今回は、その反対側の大町方面を選びました。

田嶋理事と事務局の芝崎さんが、お忙しいなか作ってくれた資料を片手に、出発です。本覚寺(日蓮宗妙巖山) 妙本寺(比企一族の邸のあった所) 常栄寺(ぼたもち寺) 安養院(安養院というのは北条政子の法名) 妙法寺(苔寺) 途中の坂道の側にある、小さな公園、ひぐらし公園で昼食 腹切りやぐら(北条高時が一族郎党と共に切腹した所。やぐらとは、岩窟を指す鎌倉地方の方言で、崖を掘って作った横穴式の墳墓のこと) 宝戒寺(はぎ寺)

鎌倉国宝館 鶴岡八幡宮(本宮前の石段で記念写真を撮っていたら、下から花嫁さんの一行が昇ってきた。みんなで拍手) 丸山稲荷(八幡宮建立以前からあった地主神)

最後は源平池(蓮池)の側の空き地に車座になって、ビールで乾杯。一人一人自己紹介し、あとはワイワイ、ガヤガヤ。そして散会。

ところで、22人の中には、顔もお名前もはじめての方もいます。顔は覚えていても、名前を思い出せない方もいます。でも、並んで歩いているとすぐ親しくなります。「面接授業どうでした?」「午後は眠くて、でも先生のお話は面白かった」「今度、博物館概論取ると思うんだけどどうかしら」「ううん、難しそうだけど、俺もやってみるか」

話題は、放送授業のこと、面接授業のこと、そして、通信指導のことなど、学業のことが中心にな

ります。「私は本部まで行って面接授業を受けてきた」とか、「日曜日にセンターへ行ってテーブル8本こなしたよ」という方もあります。

そのたびに、「みんなガンバっているんだなあ」と、心が引きしめる思いがしました。

もちろん、目前の寺院や宝塔、あじさいの花も話題になります。中に詳しい方があって、「やぐら」の広辞苑にもでていない説明など、とても参考になりました。そんな時、ふと「往時の人は何を求めて生きていたんだろうか?」という考えがよぎり、忘れていた哲学的命題「われら、どこからきてどこにいるのか。どこからきて、どこへいくのか」を思い出しました。そんなわけで、久しぶりに楽しく語らい、また自分を見つめさせられた1日でした。

(石川守記)



U A 神奈川学習センター なつだより編集部

発行者：神代和俊
編集者：五十嵐、遠藤、星、
加藤、松本、皆川、吉田、
斎藤、浅野、坂井

・イラストは、坂戸五葉さんに描いていただきました。

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「あき」だよりの特集テーマは、「趣味について」です。学生の方々の経験談・原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて9月上旬までに、センター窓口までお寄せください。

第15回神奈川学習センター 学園祭(フェスタ・ヨコハマ)

目的：教職員と学生相互の親睦をはかり、交流の輪を広げる。

・日時：2001年8月26日
(日)10時30分～15時

・場所：神奈川学習センター講義室および講義室前空地

・記念講演：渡邊 融先生
(保健体育)『日本人の球心
(たまごころ)』-蹴鞠から野
球まで-10時30分～12
時30分(質疑応答を含む)第
8講義室

囲碁・将棋大会：第4講義室で
9時30分～12時30分
俳句・川柳大会：参加者から
それぞれ一句を投句してもらい、

参加者全員の投票によるコンテスト(交流会場に掲示)

ビンゴ大会・交流会：12時40分から講義室前の空地で

パーベキューやゲームをしながら、交流会を開催します。

参加券：行事に参加する場合は参加券が必要です。単位認定試験中に、神奈川学習センターの1階ロビーで販売します。葉書での申込みも受付ますので、神奈川学習センターに御送付下さい。当日売りは他の学習センターの人に限定させていただきます。一人一枚1,000円。同伴の小児は無料。

以上です。多くの仲間のご参加をお待ちいたしております。

第15回神奈川学習センター
学園祭実行委員会
(神奈川放友会と人間学研究会ほかのサークルで構成)